

日本性科学会 ニュース

第37巻 第3号

平成30年(2018年)9月

発行人: 大川 玲子 印刷所: 株式会社 絢文社

2019年研修会・学術集会開催予告

近畿地区研修会再開への想い

関西医科大学 精神神経科学講座

NPO 法人 関西GIC ネットワーク 織田 裕行

日本性科学会近畿地区研修会を継続させて頂くべく、現在準備を少しずつ進めております。本研修会は、2007年度から10年にわたり、森村美奈先生がご尽力され育んでこられた素晴らしい会です。このたび、僭越ではございますがNPO 法人 関西GIC ネットワーク (以下、KGN) が後援としてお手伝いさせて頂く予定となりました。

私自身は、精神科入局2年目に勃起障害の診療に関わる機会を頂き、最近ではトランスジェンダーのこを中心として性のことに携わらせて頂いております。少なくとも性の領域は、深く知ろうとすればするほど広く知る必要があるように感じております。性に関して広く、しかも関西で学べる場があまりないなかで、本研修会はとても貴重な学びの場となっておりました。同時に、性に関する日々の臨床を行っていくうえで心の支えでもありました。そのため、受講させて頂きましたことに今でも深く感謝致しております。

一方、KGN は2006年7月に第1回の総会を開催し、2010年7月にNPO 法人化し活動を継続してまいりました。主にトランスジェンダーに関する情報の発信と普遍的な医療の確立を念頭に、講演会や日本精神神経学会の「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン」に沿った身体的治療の適応判定などを行っております。

今後は、KGN とともに近畿地区研修会の運営をお手伝いしつつ、さらに研鑽を重ねていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

第48回セックス・カウンセリング研修会

日 時: 2019年6月2日(日)

場 所: 東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂(東京)

第39回日本性科学会学術集会

期 日: 2019年10月6日(日)

会 場: 鹿児島市医師会館(予定)

学会長: 玉昌会高田病院泌尿器科 内田洋介

Vol. 37	日本性科学会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F TEL・FAX 03-3868-3853
JG. 3	

介入の糸口のつかめない性嫌悪の1例

つくばセントラル病院産婦人科

田 中 奈 美

症例：妻A子 31歳、電機メーカー契約社員、B夫32歳、電機メーカー技術職

初診時主訴：「セックスレス」

妊娠分娩歴：2妊2産、既往歴：特記すべきことなし

宗教：特になし

家族背景：B夫、A子、長女（6歳）、次女（3歳）の4人家族

経過：

X-8年：職場の研修で知り合ったB夫と1年の交際期間を経て恋愛結婚。結婚後も避妊はせず。1～2週に1回セックスがあった。

X-7年：第1子の妊娠をきっかけにセックスレスとなる。B夫も性交が妊娠に影響しないか心配だった。

X-6年6月：第1子を正常分娩。産後「1年は待って」とA子からB夫に伝え、ふれあいのみ行っていた。1年後性交再開し2回の性交で妊娠。妊娠後は再度セックスレス。

X-3年3月：第2子を正常分娩。産後は「8～10か月は待って」とA子からB夫に伝えるが、その時期が来ても性交の再開はなく、スキンシップを求めると、A子はいやがってハグも拒否。B夫は家事や子育てを積極的に手伝い、なるべくスキンシップを取ろうとしたが改善せず。

X年7月：産婦人科を受診した際に、セックスレスについて相談したところ、治療者を紹介され夫婦で来所。

A子は性欲がなく、本人も何故かわからない。他の男性ともしたいと思わない。子どもが傍で寝ているのに…という気持ちがある。A子にとってB夫は男性というより家族。B夫はスキンシップをしたいが、A子は拒否する。寝室は一緒に二つのベッドでそれぞれが子どもと寝ている状況。

2回目にA子のみ来所。「B夫とのセックスでは快感はある時もない時もあった。前戯中に日常の会話を突然してきてイラッとした時が2回ほどあった。恋人同士の時は良かったが、結婚してから気持ちは盛り上がらない。オーガズムは最初のころはあったが、子どもができてからはあまりなく、楽しむという感覚もない。B夫があきらめてくれれば良いと思っている。拒否してB夫の機嫌が悪くなると、日常生活に支障が出るのが嫌なので何とかしたい。」

治療者より、性嫌悪は簡単にはよくならないこと、子どもの前では拒否しない、ハグと手つなぎは我慢する、B夫が嫌いなわけではなくB夫が必要であることを言葉で伝える、子育て期の一時的な状況の可能性もあるので、気長に考える、などを提案した。

その後、A子が2人きりの時間を作ろうと提案し、土曜の夜にお酒を飲むことをB夫が提案したが、A子にとっては普段より遅い時間で眠くて継続できず。B夫が2～3週間ふれあいを我慢しても、A子からは何の行動もなくB夫は嫌気がさし、また手を出す。B夫の突然スキンシップがA子は苦痛。B夫は結婚したらセックスするのが当たり前だと思っている。拒否すると怒り、A子のことを考えていないとA子は感じている。2人の時間を提案してもなし崩しで、A子は変わる気がないので、とB夫は感じている。

治療者より：予想できるタイミングでのスキンシップにしてみても？A子としては責められているように感じて辛いかもしれないので、B夫から言うのをやめて見ては？と提案した。

その後、予想できるスキンシップとして、毎朝のハグを続けた。A子としては頑張っているが、一瞬我慢する儀式のよう、とB夫は言う。子ども達から「何でぎゅっとできないの？お父さんのこと嫌いなの？」とA子は聞かれるが、「わからない」と答えている。子どもの前でスキンシップをされると拒否反応が出る。B夫は父母になっても仲良しでいたいので悲しく傷つく。治療者からは、子どもには、父親のことを嫌いではないこと、単にふれあいが苦手になったことを伝えるよう提案。A子にとっては母親モードか仕事モードかで、妻モードが今はない。切り替えが苦手なタイプなのかもしれない、と考察。

その後1～2週に1回ぐらいの背中でのマッサージを始めたところ、A子はマッサージと朝の出がけのハグなら続けられそうと感じている。依然それ以外のコンタクトは拒否。一時期はふれあいが全くなかったのが、A子としてはステップアップしたつもり。「仕事が大変だから」「子供に時間を取られるから」とA子の理由は変わっても、状況は変わらないのでB夫は不満。面談時もB夫の言葉に涙するA子が何度か見られた。

考察：A子の性嫌悪の背景に、元々の性格や、B夫との微妙な行き違いも関係している様子だが、改善に向けての糸口が見いだせない状況である。研究会での意見では、A子とB夫では大丈夫と思っていることとに解離がある、B夫が妻にここまで執着する気持ちがわからない。職場に女性が少ないから？B夫が子どもっぽいのでは？A子はただ単に疲れているのでは？などであった。

治療に関しては

- ・相手の何が変わってほしいのか、何は変わらないでほしいのか？をお互いに聞いてみる。その内容が、セックスがないと不可能なものなのか、セックスなしでも可能なものなのかを検証して、後者であればまず2人でそれから始めてみるように提案する。
- ・心理療法は、A子が治療したい、という気持ちになれば効果的かもしれない。
- ・薬物療法としてエスタシロプラム（サインバルタ®）10mgを常用すると、恐怖症には効果的などの意見が出た。

第15回アジア・オセアニア性科学学会報告

国立病院機構千葉医療センター婦人科

大川 玲子

表題の学会（会長Narayana Reddy、34th conference of sex education & parenthood との共催）は、8月17日～19日の日程でインド・チェンナイ（Chennai）Hotel Hyatt Regency で開催された。

出席者は12カ国から283名（インド；239、日本；18、オーストラリアとインドネシア；7、他バングラデシュ、マレーシア、エジプト、フィンランド、フランス、南アフリカ、韓国、USA）である。JSSS 会員では早乙女智子、佐々木掌子、山中京子と筆者である（東優子氏は残念ながら腰痛のため欠席）。



講演は2会場で行われ、特別・教育講演；5、シンポジウム；7、パネル・ディスカッション；4、スペシャル・レクチャー；30、一般講演；22、face to face session of sexual minority；1で日本人の発表は9演題であった。さらに福田和子・柳田正芳企画進行による Youth Session には、学会本部も学生の動員をかけて協力、10年来の WAS・AOFS の Youth program の成果と言える。プログラム構成は、カーマストラの国インドではあり、男女の性機能不全に関する講演が多いものの、性教育、性暴力、sexual minority など多彩であった。12年前に比べ女性の活躍も目立った。写真は女性の閉経前後の健康とセクシュアリティに関するパネルで、女性医師達が競演の後、称え合う様子である。

全体企画も宗教的色彩の開会式など、国際学会らしいお国柄が出た。歓迎会のエンタテインメントは、古典・現代を取り混ぜた音楽で、自然や人、セクシュアリティへの賛歌に溢れた力強いものであった。懇親会で披露された民族風ダンスは、性虐待・トランスジェンダーなどをテーマにし、フロアーとの討論もあるなど、メッセージ性の高い表現であった。

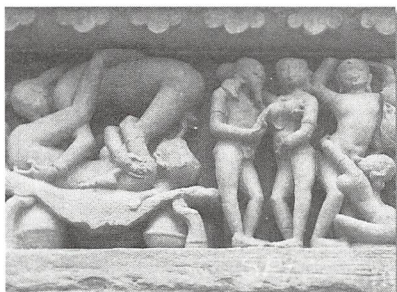
理事会では AOFS 会長が14回大会長の Dr. Park から本大会長の Dr. Reddy に移った。最重要案件の次期開催国（会長）は、前回提案された北京からの出席がないため、挙手しているマレーシア、オーストラリアを含めて検討することになった。

チェンナイはインド第4の大都市で IT 産業が盛んということだが、酷暑でもあり、大方は快適な（むしろエアコン



役員会での集合写真

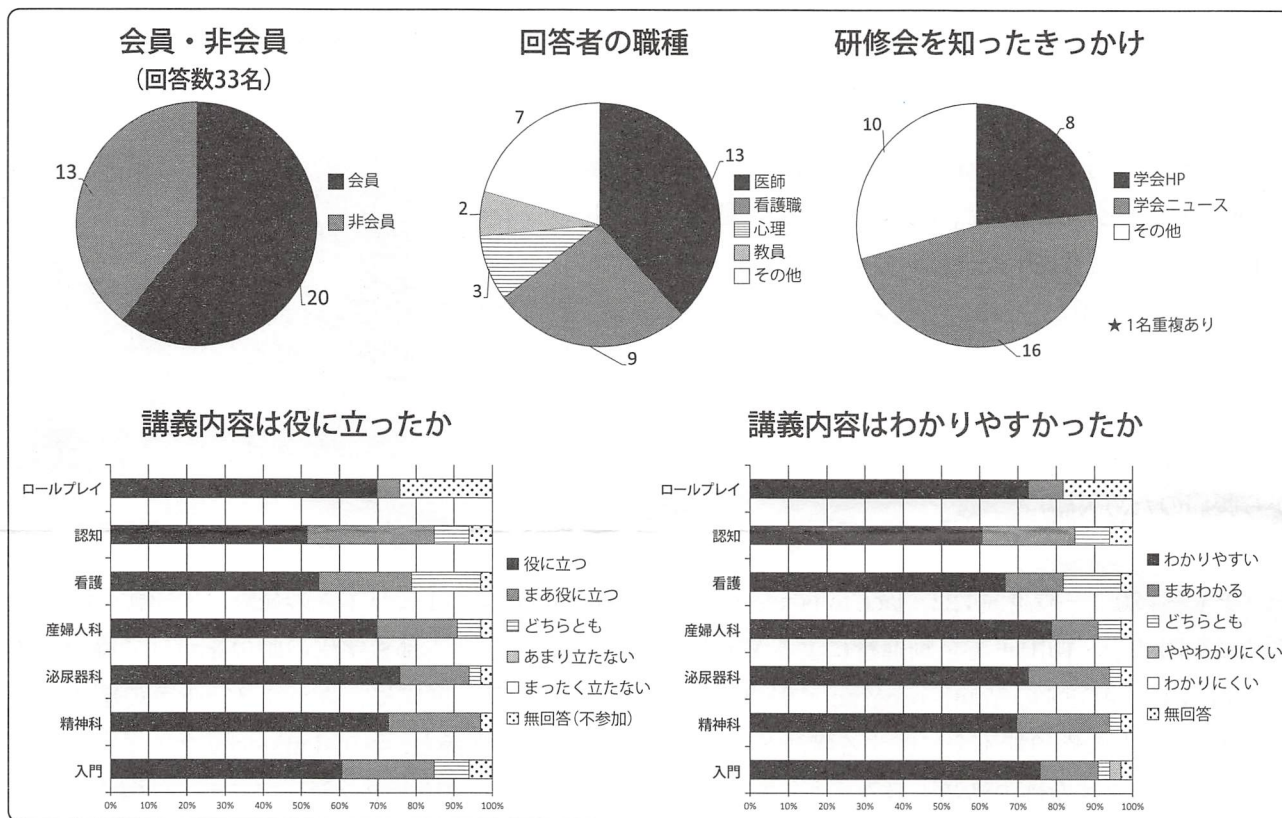
で寒い）ホテルに留まり、結局数時間外出しタクシーで市内を回り、ヒンズー教寺院を訪ねた程度であった。今回筆者が学会に次いで訪ねたかったのが Khajuraho である。10～14世紀の寺院群で遺跡というより、特にジャイナ教では生きた宗教寺院であるが、何と言っても有名なミトナ像（84態と言われるセックスの肢体像群）である。写真はネットでも見られるようなものだが、「見て来た」というつもりで筆者の写真



を掲載する。このために往復24時間の電車とマイクロバス、といういかにもインド的な旅をすることになった。幸い雨季というのに雨に遭わず、ピンクや赤みがかった砂岩で造られた、寺院の造形も美しく、ミトナはもちろん楽しげで、しかも信仰に結びついている。交通信号の無い道路にひしめくバイク、車が暗黙のルールで共存し、その頂点にいる「牛」には皆穏やかである。この現実には言葉もなかった。

2018年セックスカウンセリング研修会アンケート結果

主婦会館クリニック産婦人科 早乙女 智 子
倅生会身原病院産婦人科



取り上げてほしいテーマ等：

セックスレスの最新情報／多様な対人関係と性的関係／セックスレスのカウンセリング／性に関する悩みの女性の具体的な事例研究／性交渉に恐怖をもっている女性の治療／不妊治療中の性行動について

感想：入門編で内容が少し浅かった／講義時間が急ぎ足の印象を受けた

第9回 世界性の健康デー記念イベント2018 in 東京

主婦会館クリニック産婦人科 早乙女 智 子
倅生会身原病院産婦人科

WAS から提示された今年のテーマは、Sexual Health Sexual Rights-It's FUNDAMENTAL! (性の健康や性の権利は基本です!) という王道中の王道で、どうとでもなるとも言え、また如何ともしがたいテーマでもありました。

会場は四谷の持田製薬本社ビルのルークホールで、小雨の中、50名超の参加者を得て、こじんまりながら濃厚な時間を過ごしました。

午前中は、文化祭スタイルで開催し、大会議室では、染谷明日香さんの「ピルコン」&福田和子さんの「なんでないの?」、イロタカさんの「セックスミュージアムを作りたい」、朝霧湖心音さんの「タロット占い」、性と健康を考える女性専門家の会の海外の避妊具展示、性感染症ビデオ視聴、そして、小会議室では、荊子さんの緊縛と小林ひろみさんの潤滑ゼリー体験、と少人数だからこそゆっくり聞けて語れる、体験型の企画となりました。

今年の東京大会のシンポジウムは「納得できない」性の話というテーマに絞りました。企画運営出足の遅れたまま開催直前に演者を探すという綱渡りの中で、幸いトランスジェンダー活動家の畑野とまとさん、「しゃくじいの庭」という小規模多機能施設長の青木伸吾さん、そして離婚調停などの弁護士、打越さく良さんがお引き受け下さり、個性の光るお三方のバランスも良く、あとは当日の流れ次第となりました。シンポジウムと言っても、演者が一方的に語るスタイルを捨て、ラジオトーク形式にし、会場からの質問は随時、紙に書いて回収して、ラジオのように読み上げました。

企画運営の出足が遅れた割には、事務局長柳田正芳さんのお蔭で、旧JFS 参加団体すべてと、UNFPA 東京事務所が協賛して下さいました。

来年2019年は、WSHD10周年にあたり9月8日(日)にイベントを柳田さんが計画しています。9年間続けてこられたのも、多くの関係者、特に毎年助成金を頂いてきたJASEや、大川先生はじめJSSSの皆様、JFSの皆様、そして参加して下さいる出展者や演者、参加者あつてのことです。この場をお借りして御礼申し上げます。私自身はWASの学術委員を仰せつかったので、2019年10月のメキシコシティでのWASに照準を合わせていきます。